

令和4年度 多摩市文化芸術ビジョン検討委員会 第1回 要点録

開催日時・場所	令和4年10月13日(木) 18:00~20:00 多摩市役所西会議室1	
参加委員	参加委員7名 学識経験者：伊藤裕夫氏 市民委員：石坂氏、岩佐氏、柴田氏、新倉氏、西村氏、渡辺氏	
出席職員	くらしと文化部長、文化・生涯学習推進課長、文化施策担当課長、事務局3名	
主な内容	開会	資料の確認、部長挨拶、委員委嘱、委員・事務局紹介
	次第1	委員会の趣旨について
	次第2	委員会の概要説明について
	次第3	委員長、副委員長の選任
	次第4	正副委員長挨拶・要点録・傍聴について
	次第5	令和4・5年度 多摩市文化芸術ビジョン検討委員会 全体の流れについて
	次第6	(仮称)多摩市芸術文化将来ビジョンについて
	次第7	第2回委員会について
議題	主な意見(●事務局、◎委員長、○委員)	
次第1 本委員会の趣旨について	●本委員会の趣旨について説明を行い、確認された。	
次第2 委員会の概要説明について	●委員会の概要説明を行い、確認された。	
次第3 委員長、副委員長の選任	委員長、副委員長、それぞれ互選によって選任。全委員、了承 ・委員長 伊藤 裕夫 氏 ・副委員長 岩佐 玲子 氏	
次第4 正副委員長挨拶・要点録・傍聴について	●以下、3点が確認された。 ①要点録は、原則公開。委員会終了後、各委員の確認を経て公開。 ②委員の名簿を公開。 ③市で規定する新型コロナウイルス感染症対策を実施した上で、傍聴を実施していく	
次第5 令和4・5年度 多摩市文化芸術ビジョン検討委員会 全体の流れについて	●委員会の全体の流れについて説明を行い、確認された。	
次第6 (仮称)多摩市芸術文化将来ビジョンについて	●(仮称)多摩市芸術文化将来ビジョンについて説明を行い、確認された。 ◎ここまで、多摩市が定めていく将来ビジョンのイメージを共有した。まずは前提条件となる、これからの5~10年間に予想される文化芸術に関わる社会の変化について、この場で話し合っていきたい。 コロナ禍で文化のあり方が変わってきたが、今は国も観光に力を入れ始めている。文化芸術基本法ができ、今年度で第1期の計画が終わるため、現在は第2期の計画が作られている。こういった内容になるかまだわからないが、1月頃には中間発表があるのではないかと。多摩市はパルテノン多摩の大規模改修工事を行った。また多摩中央公園も改修しており、施設も変わっていくだろう。こういった動きもあり、社会や市の変化について話し合いたい。 委員から、将来ビジョンを検討していくにあたり、おさえておくべき社会	

<p>次第6 （仮称）多摩市芸術文化将来ビジョンについて</p>	<p>の変化について意見はどうか。</p> <p>○10年後を想定した将来ビジョンや計画を作成するが、実行は数年先になる。それらの成果をいつ出すのか明確にした方がよいと考えるが、いつになるのか。</p> <p>●将来ビジョンは、2024年度～2033年度を目途にしている。計画も将来ビジョンに付随する。計画は中間見直しを予定。現時点では2033年度には成果をまとめる予定である。</p> <p>○次第6で事務局から説明のあった、文化芸術の範囲で文化財を範囲外にすることについて、ビジョンにおいては具体的な話はともかく、文化財という概念は有形無形で広く、文化芸術のイメージを狭くしすぎないため、文化財を外すことにこだわらなくて良いのではないかと。例えば、文化財が観光の大きな目的になったりする。文化財は地域の魅力を形作る面もあるので、ビジョンを考える際は外すのは避けたほうが良いと思う。</p> <p>○多摩市みんなの文化芸術条例（以下、条例とする）は、赤ちゃんの頃から子ども達が文化芸術活動に触れられる大切さについて議論してきた経緯がある。赤ちゃんを育てている子育て世代が文化芸術活動から離れなくて済むような仕組み、環境ができないか。子育てをサポートし、子育て世代に焦点をあてる重要性を感じている。</p> <p>◎条例は、子どものための取り組みを項目立てして作っているのが特徴。子育て世代が文化芸術活動を継続していく環境作りは課題である。</p> <p>少子高齢化がますます深刻化していく。特に多摩市はニュータウンがあり、初期に移り住んだ方の高齢化が顕著である。そういった人口構成や税収減の課題も含め、文化芸術をいきいきとさせていくにはどうしたら良いのか。ICT（情報通信技術）の発展やSDGsの取組も文化芸術活動に影響を与えている。</p> <p>注目されている取り組みとして、学校や地域で地域の人々が部活を支える仕組みがある。</p> <p>○多摩市に限らず、人口減、税収減という課題がある。その一方で、コロナ禍による在宅勤務が進み、働き方が変化している。都内にあるオフィスに勤めている人が多摩市に移り住めば良いのではないかと。緑が多く住みやすいことをもっとアピールし、多摩市の人口を増やすことが税収増につながり、文化芸術にかけられる資金を多くすることも考えられる。</p> <p>○人びとが住みたいと思う街は総じて文化的な街であることが多く、文化芸術を振興させることは街の魅力を上げる要因となる。</p> <p>○文化的な街とは、外からポンともってきたものではなく、草の根的に地域の人たちで土壌を耕すことで培ったものが、全体を豊かにする。老若男女に通じるものであることが大切である。特にこの数年で多摩市の出生率が下がっている。子育て世代にとって魅力ある街にしたい。ハレの日よりも日常生活を大切にしたい、住んでいることに価値を見出せる街にしたい。</p> <p>○多摩市文化団体連合は多摩市と共催で市民文化祭を実施しているが、ミドル世代の参加が少ない。フェスティバル、マルシェは参加してお金を稼げる仕組みがあるから、ミドル世代も参加しやすい。市民文化祭を継続していく上でミドル世代を取り込んでいくために、参加する人たちが稼げる仕組みを作るのかどうかといった課題がある。</p>
--------------------------------------	---

次第6
（仮称）多摩市芸術文化将来ビジョンについて

○コロナ禍で人々が集まることなく、リモートで対応することが多くなった。ビジネスにおいては、出社する必要がなくなるなどメリットは大きいかもしれない。しかし、芸術文化に関しては、リモートはデメリットしかないのではないかと考える。現地に行って、生で鑑賞すること以上の環境はないと考える。個人的な考えでは、10年後はコロナ禍の影響は抑えられ、現地で芸術文化鑑賞する環境に戻っているのではないかと考える。あまりコロナ禍に縛られない将来ビジョンや計画にした方がよいのではないかと考える。

資料5の事務局案である将来ビジョンの柱に「芸術文化に親しむ市民のすそ野が広がる」とあるが、その通りだと思う。理想としては、市民全員がパルテノン多摩のような文化施設に足を運んで鑑賞や活動すること。しかし、実際は難しい。必要なことは、文化芸術活動をしなない人や鑑賞をしなない人が、市内で文化芸術活動が行われているメリットを理解している状態になることだと考える。パルテノン多摩などの文化施設があることや、市内で文化芸術活動が行われていることが、多摩市のためになることを理解してもらうために、何が必要かを考えていくことが大切である。

○以前暮らしていたベルギーのとある街では、週1回しか映画館が開けなかった。でも、そのおかげで街中の人々が一度に集まり、挨拶して言葉を交わし、映画鑑賞後は皆でカフェに行って夕食を共にするような、老若男女が友人として付き合える環境があった。

文化芸術は敷居が高いイメージがある。10年くらいのスパンで将来ビジョンや計画を実施できるのであれば、日常的に気が付いたら文化芸術に触れている環境を作れないか。例えば、本場のようなクリスマスイベントに市民が気軽に参加したり、大みそかには家族で第九のクラシックを鑑賞したり、日常的に本格的な文化芸術に触れられる環境があると良い。

○とあるサロンを実施した時に参加者とお話する機会があった。その方から、「演奏会のポスターなどを見て興味湧いても敷居が高いと感じてしまう。どうしたら良いのか」と相談を受けた。せっかく興味をもってもらったのに、敷居が高い、ハードルが高いから結局行かないという状況をどうしたら変えられるのか。そこを議論していく必要もある。

○予算対策も必要だが、同時に様々な手段で収入を増やすこともできるのではないかと考える。先日、パルテノン多摩の芝居を鑑賞したが、席が余っていた。せっかく良いものなのに、席が空いていたら無駄になる。空いた席を活かす為、有効に提供できる仕組みも必要ではないかと考える。

○アフターシアターといって、鑑賞後に仲間と飲んだり話したりすることができたら、より文化芸術を楽しめるのではないかと考える。演劇が好きでもない人が演劇鑑賞している理由に、その後の飲み会が楽しいからという人もいる。自宅が近い地域の文化施設は夜まで出かけやすい。鑑賞後のコミュニティ、イベントがあると良いのではないかと考える。

○ヨーロッパのバレエ、クラシックはドレスアップが必要であり、敷居が高く経済的な負担が多い。そういったイメージが文化芸術にある中で、日常で知らないうちに触れている状況にするには、子どもの時から文化芸術に触れている必要がある。乳幼児から10年追って統計をとり、検証することはできないかと考える。

○周りには演劇に馴染めないという人が多い。「演劇は特別な人が好きなんですよ」という声が多い。

○パルテノン多摩で鑑賞した芝居の演者の一人は、多摩市出身だった。地元

<p>次第6 （仮称）多摩市芸術文化将来ビジョンについて</p>	<p>出身の人や知り合いが出演すれば、市民が興味をもち応援するようになるのではないかと。多摩市で文化芸術に真剣に取り組んでいる才能ある若者などを毎年選出し、多摩市内での演目を無料で見ることができたり、コンサートの場を提供したりなど、積極的に支援するような取組みもあるのではないかと。</p> <p>○クラシック音楽が「敷居が高い」と思われる要因の一つに、演者側がそういう雰囲気を作り出しているのではないかと。高尚なものやっているんだと発しているのかもしれない。演者側が観客に対し、親しみをもってもらえるよう努力をしていく必要がある。</p> <p>○鑑賞は受け身であることが多く、特に子どもの場合は参加・体験から始めた方が良く、鑑賞を強調するだけでなく、参加・体験をステップとして入れた方が良く。</p> <p>○もともと文化芸術は日常と繋がっていた。18世紀、19世紀前半は、文化芸術は街頭や広場で行われ、人々に開かれていた。しかし、コンサートホールが建設され、照明技術が向上し室内で演劇が行われるようになり、閉じた空間で文化芸術が鑑賞されるようになる。そういったことが多くの人々から文化を遠ざけ、文化が衰退したのではないかとという内容の書籍があった。</p> <p>○施設であっても、誰でも入れるような開かれた美術館はある。子どもの時から様々なことを参加・体験することで、自分は何が好きなのか、何が嫌いなのかを知っていくことが大切である。好きなことが見つければ、大人になっても活動を続けたり、お金を払ってでも観に行こうとしたりする。</p> <p>◎次に、「文化を活用する」という視点についてはどうか。豊かな文化があることにより、多摩市に住んでみたいと思う人を増やすことも、文化を活用することに繋がる。多摩市ではどんなことがイメージできるのか。</p> <p>○恵泉女学園大学は、園芸を教育の礎にしている。花があることで暮らしに彩りや潤いをもたらす、平和のシンボルになると考えている。花いっぱい街づくりを目指している。30年前、ペDESTリアンデッキに花が咲き誇っていた。財政的な面もあり、最近では手入れが行き届いていない。住環境を整え、美しい街で文化を楽しむ街にしたい。地域の大学、企業の連携で実現できないか。花は世話をする必要がある。手間がかかる。でも、そこであえて時間をかけることで、心のゆとりや物を言わないものへの思いやりが育まれる。それは豊かさに繋がる。</p> <p>○文化芸術に自然に触れられること自体が豊かさになる。その豊かさをみんなが得られるようにするために、どの様に進めるのか考える必要がある。ごみを街に捨てっぱなしにするコミュニティではなく、自分たちの街は自分たちできれいにしていく意識の高い市民を強制ではなく、いかに自然に増やしていくのか。</p> <p>◎将来ビジョンがどのような内容になろうと、だれが担い手になるのか、が重要。市民意見を取り入れるために実施するアンケートやワークショップもいいものにしたい。次回以降に議論していきたい。</p>
<p>次第7 第2回委員会について</p>	<p>日時：令和4年11月30日（水）18時～20時 場所：多摩市役所301会議室 内容：将来ビジョンの柱・内容について</p>